

## ■追加説明■

「コンクリート技士試験問題と解説 2021」における解説につきまして、一部わかりにくいというご指摘がありましたので、以下に解説の一部を変更したものを掲載いたします。

ご利用いただければ、幸いです。

### ○p.60 R.01 問題 39

#### 【ポイントと解説】

JIS A 6204 では、化学混和剤中の全アルカリ量は化学混和剤中のアルカリ量とコンクリート 1 m<sup>3</sup>あたりその化学混和剤使用量の積で求めることになっています。

一方で設問は、コンクリート 1 m<sup>3</sup>中の化学混和剤の使用量と、コンクリート中の化学混和剤の全アルカリ量の積と記載されています。この「コンクリート中の化学混和剤の全アルカリ量」こそが、JIS で求める化学混和剤の全アルカリ量であって、使用量と掛け合わせるべき値は、化学混和剤 1kg あたりに含有している全アルカリ量になります。

したがって、設問の「コンクリート中の」という文言が不適切であり、単に「化学混和剤中の全アルカリ量」となるのが適切な文章になります。

### ○p.175 R.01 問題 45

#### 【ポイントと解説】

[普通 30 21 20 N] は、普通ポルトランドセメント、粗骨材の最大寸法 20mm の粗骨材を用いた呼び強度 30、スランプ 21 cm の普通コンクリートである。

設問では、荷卸し地点でのスランプ 21 cm の許容差を± 2.5 cm とした、とあるが、JIS A 5308 では、呼び強度 27 以上で高性能 AE 減水剤を使用する場合は± 2 cm と規定している。よって、記述は誤り。